

霜・低温に伴う農作物の管理対策

令和4年4月1日

新潟県農林水産部

4月1日11時に発表された新潟県の週間天気予報によると、2日から5日までの新潟市における最低気温が2～5℃と予想されており、山沿いの最低気温は、より低くなる場合があります。場所によっては霜が降りる可能性があります。

については、下記の管理対策を参考として、今後の農作物の管理に十分注意してください。

1 野菜

(1) 育苗から定植までの管理

ア 育苗中の果菜類は、低温により定植が遅れて育苗日数が長くなる場合、苗の徒長が懸念されるので、午後に換気を行い育苗ハウス内の湿度を下げるとともに、かん水は少なめにし、鉢等の間隔を広げる。

イ 育苗後半は、定植に備えて外気に慣らすため、夜間の温度管理を低めに調整する。

ウ 定植前のほ場のマルチ、トンネルの被覆は、地温を確保し定植後の活着を促進させるため、定植の7日前までに行う。

(2) 栽培管理

ア 施設栽培（トマト・きゅうり・いちご）

(ア) 温度保持や霜害の回避のため、品目や生育ステージ毎に適した暖房機の温度設定や、夕方早めの内張り資材の被覆による日中の余熱確保により、適切な温度管理に努める。

(イ) 保温的管理により施設内等が多湿になると、灰色かび病等の発生が懸念されるので、適正な換気や花びらとり等の耕種的防除を行うとともに、薬剤散布を行う。

イ ハウスすいか

生育ステージに応じて対策を行う。

(ア) 交配前の場合

夕方から夜間の温度保持のため、午後早めにハウス及びトンネルを閉める。

(イ) 交配期の場合

ハウス換気を遅らせ、湿気を抜く程度のトンネル換気とし、開花・開葯を促す。

また、低温が続く場合は、開葯した雄花をビニール袋に入れ、冷蔵庫で貯蔵し翌朝の交配に利用する。

ウ トンネルすいか・メロン

霜が降りる前に定植を予定している場合は作業を遅らせる。生育ステージに応じて対策を行う。

(ア) 定植直後の場合

霜害防止のため不織布のべた掛けやキャップを使用し、低温の影響を回避する

ため、活着までの3日程度は蒸し込み状態を維持する。ただし、晴天時は、高温による葉焼けを起こす危険があるため若干換気を行う。

(イ) 活着後～交配前の場合

トンネル内湿度を上げないよう換気を行い、夜間の温度保持のため、夕方早めにトンネルを閉じる。

(ウ) 交配期の場合

「ハウスすいか」を参照

(エ) 砂丘地の場合

降霜時刻に併せてスプリンクラーかん水（散水）を行う。

エ アスパラガス

萌芽直後の若茎が低温障害を受けた場合は、速やかに除去し、株への負担を軽減する。

オ えだまめ

霜害防止のため、トンネルやべた掛け資材等の被覆資材を活用し、保温的管理に努める。

2 果樹

- (1) かん水・散水を控え、地温の維持を図る。
- (2) 冷氣だまりなどで被害が発生する常襲地は防風樹・生け垣などの枝を適切に管理して被害軽減を図る。
- (3) 敷きわらなど、地表面を被覆する資材は樹冠下から除去する。
- (4) 発芽期に入っている樹種などは燃焼資材による防霜対策に努める。
- (5) 防霜ファンは事前の動作確認と稼働気温設定を確認しておく。

3 花き

- (1) 球根養成では、茎葉の霜害による褐色斑点病等の発生、更に低温が長引くと細菌性病害の発生が懸念されるので、予防的な防除を行う。
- (2) 切り花及び鉢物等の施設栽培では、ハウス内温度を保つため、夕方早めに内張り資材を被覆する。
- (3) 無加温ハウスでは、夜間低温時、必要に応じてストーブ等で加温を行う。

4 きのこと

- (1) 事前対策として、霜の発生・気温の低下が懸念される場合は、きのこの品種や生育状況に応じた適切な温度管理に努める。
- (2) 事後対策として、生育状況の把握に努め、異常が認められた場合は、適切に対応する。